

# 春日井ロータリークラブ 2016～2017年度 WEEKLY REPORT



クラブテーマ

～地域で期待されるロータリアンになろう～

会 長 : 伊藤 純 例会日 : 金曜日 12:30～13:30  
 副 会 長 : 社本 太郎 例会場 : ホテルプラザ勝川  
 副 会 長 : 宅間 秀順 事務局 : 春日井市鳥居松町5-45  
 幹 事 : 成瀬 浩康 TEL : (0568) 81-8498  
 会報委員長 : 加藤 宗生 FAX : (0568) 82-0265  
 E-mail : Ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

自然の恵みを  
未来の子供達へ

ロータリーの森

## 本日のプログラム

- ・点 鐘 司会 朽本 正樹君 伊藤 純君
- ・ ROTARY SONG 「日も風も星も」
- ・ 今月の歌 「いい日旅立ち」
- ・ ビジター紹介 伊藤 純君
- ・ 食事・歓談
- ・ 委員会報告
- ・ 祝 福
- ・ 卓 話 河村 哲也君 成瀬 浩康君 伊藤 純君
- ・ 幹事報告
- ・ 点 鐘

### 今月の歌

いい日旅立ち  
 帰らぬ人たち 熱い胸をよぎる  
 せめて今日から ひとりきり旅に出る  
 ああ 日本のどこかに  
 わたしを 待ってる人がいる  
 いい日旅立ち 夕焼けをさがしに  
 母の背中で聞いた 歌を道連れに

### 今月の祝福

#### 会員誕生日

5日 伊藤 純君 11日 大原 泰昭君  
 17日 小川 茂徳君 29日 蓮野 美廣君

#### 結婚記念日

21日 名畑 豊君 24日 長谷川英輝君  
 30日 加藤久仁明君

#### 夫人誕生日

4日 加藤 茂君・純子さん  
 18日 梅田 英夫君・里子さん  
 24日 長谷川英輝君・亜紀さん

### ロータリーの友月間

例会予定	9月23日(金)	9月30日(金)	10月7日(金)	10月14日(金)
	休会定款6-1	卓話 米山奨学副委員長 小栗 正章君	理事役委員会 11:30 祝福 卓話 大橋 省吾君	ガバナー公式訪問 グランドティアラ春日井 3RC 合同例会 12:30

## 2016年9月16日(金)2293回(9月第3例会)

- 27日 神田 寛司君・明子さん
- 28日 中川 健君・加代子さん

### アテンダンス表彰

- 7ヶ年 和田 了司君
- 3ヶ年 朽本 正樹君
- 2ヶ年 小川 茂徳君

### 先週の記録

#### 会長挨拶 副会長 宅間 秀順君

2016.6.18 日経朝刊より

##### ①爆買いの変化

日本を訪問する外国人、主に中国人は1台10万円以上の炊飯器を1人5～10台も買って本土に運んでいたが、入国の際、課税されることになり20%も高いものとなったと共に、人民元安の影響により爆買いの減少となった。

##### ②観光人口

2015年は、2000万人超の訪日客があり、今年は更に15%の増加。客単価は12%の減少だが、日本訪問熱は冷める気配なし。中国の給与水準が大幅上昇しているのが要因。

##### ③中国国内での消費の動き

所得増により消費の伸びも大きく、特に日本製品は人気が高い。我がタクマ食品も輸出荷物が増え、昨年比倍の勢いで増えている。

##### ④外食は

訪日客の人気メニュー①黒毛和牛②寿司③ラーメンの順で根強く、日本滞在中の1人当たり消費額30,176円は今後も変わらず、訪日客数15%アップから見れば、全体的に上昇の一途となる。東京都観光局のホームページ参照

##### ⑤みやげ品は

課税により電化製品などの売上は減少するものの、比較的単価の低いみやげ品は、訪日客増加と共に更に増加の見込み。1個1,000円クラスのものが一番売れている。

爆買い後の消費変化

<ヤマダ電機>

新橋駅前店は1年で閉店。

<ビッグカメラ>

2016年売上計画の下方修正。家電量販店はリスク要因となるので、計画を見直している。

<百貨店の動き>

日本百貨店協会がまとめた4月の売上は、3年3ヶ月ぶりに前年割れ。客数は7%増加したが、1人当たりの購買単価が16%減少した。但し、今後も訪日客増加を見込めば、売上高は伸びるだろう。

## 幹事報告

幹事 成瀬 浩康君

### 第3回理事役員会

下記の審議事項につきましては全て承認可決されました。

第1号議案：開始貸借対照表並びに8月度収支決算承認の件

第2号議案：春日井RCクラブ定款・細則・内規変更の件

第3号議案：福祉のつどい協賛金の件(10万円)

第4号議案：ロータリー希望の風奨学金の件(1000円)

第5号議案：たすき購入の件

第6号議案：親睦ゴルフの件

### 地区行事

11月5日：地区指導者育成セミナー

出席者：次年度近藤太門会長・加藤宗生幹事

### その他

11月8日：春日井市青少年健全育成市民大会

13時30分～15:30分 春日井市民会館

講演会 NPOベースボールスピリッツ理事長 奥村幸治氏

### 次週予告

\*祝福

\*卓話 河村哲也君

### ◎例会変更のお知らせ

瀬戸 RC	9月28日(水) 9月28日(水) 18:00 FSMの為 喜楽梅むら
名古屋守山 RC	9月28日(水) 9月28日(水) 夜間例会の為 KENTOS
名古屋城北 RC	9月27日(火) 9月25日(日) 家族会の為 愛知県芸術劇場

名古屋葵 RC	9月29日(木) 9月30日(金) 合同例会の為
あま RC	9月26日(月) ガバナー公式訪問の為
瀬戸北 RC	9月27日(火) 9月27日(火) 18:30 夜間例会の為 か茂免

### ◎例会休会のお知らせ

○岩倉RC 9月27日(火)は休会

○名古屋北RC 9月30日(金)は休会

○小牧RC 9月28日(水)は休会

### 出席報告

委員長 古屋 義夫君

会員 61名	欠席 25名	出席率 59%
先々週の修正出席	欠席 2名	出席率 96.7%

### ニコボックス報告

委員長 速水 敬志君

○会長代理あいさつをやらせていただきます。

宅間 秀順君

○皇居、東宮御所のバラの選定に行きまわりました。皇后陛下より感謝と労いのお言葉を賜りました。

北 健司君

○来期こそナゴヤドームで日本シリーズを！！

青山 博徳君

○大変いい事がありました。

山田 治君

○雨でロータリーの森は綺麗になり木々も元気になりました。森に来てね。

早川 八郎君

○杉浦さんをお迎えする喜びで

足立 治夫君 伊藤 純君 梅村 守君

岡田 義邦君 岡嶋 良樹君 小野寺 誠君

大原 泰昭君 岡本 博貴君 加藤 茂君

風岡 保広君 河村 哲也君 加藤 宗生君

貴田 永克君 川瀬 治通君 近藤 秀樹君

近藤 太門君 志水ひろみ君 清水 勲君

社本 太郎君 朽本 正樹君 成瀬 浩康君

野浪 正毅君 長谷川英輝君 林 憲正君

速水 敬志君 蓮野 美廣君 場々大刀雄君

古屋 義夫君 藤川 誠二君 屋嘉比良夫君

○ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会

### 卓話

豊田市コンサートホール・能楽堂 杉伸 隆伸氏

「能・狂言と現代社会」

こんにちは。ただいまご紹介いただきました豊田市コンサートホール・能楽堂の杉浦です。

私は現在、豊田市駅前にあるクラシック音楽専用のコンサートホールと能・狂言や伝統芸能を上演する能楽堂で仕事をしています。本日は、特に能楽堂における仕事を通して日頃感じていることを「能・狂言と現代社会」というテーマでお話させていただきます。聞くところによりますと、こちらのクラブでは以前謡曲部があったということで

すが、それも何かのご縁かなと感じております。

さて、意外と思われるかもしれませんが、最近私どもの能楽堂へお越しになるお客さまに若い方が増えてきました。なかには着物や浴衣を着てくる人もいらっしゃいます。以前はほとんどが年配の方だったのですが、この傾向は、なんとなく5年前の東日本大震災以降あたりからのような気がします。他にも、お寺巡りをする歴史好きな女の子（歴女）や20歳前後からアートとして書道を習い始める若い女性（書道女子）のように、日本文化をゆったりと楽しもうという若い人たちが増えているということを感じます。

これは何故でしょうか？ いろいろな人からお話を聞く中でなんとなく見えてきたことがあります。それは、スピードと効率性が何よりも重視されるという現代社会の小さな反動ではないかということです。ある人の話では、スマホ・コンビニ・カードの3点セットがあれば、大抵のことはスピーディに処理でき、人とコミュニケーションを取らずに生活ができてしまうということでした。若い人たちは、これらを使いこなしている一方で、反面それだけでは満たされない本当の心の豊かさを求めているということを感じます。震災以降に流行した言葉に「絆」がありますが、これを横糸とすれば、縦糸は私たちの祖先から伝わる「伝統」や「文化」だと思います。スピードが全ての現代において、最近では「待つ」ということができなくなりました。ある意味では、スピードに病んでいるとも言えるでしょう。能楽堂という空間や能・狂言という世界は、その真逆の世界です。若い人たちが興味を持つようになった能楽堂や能・狂言とは、どういうものなのか。ひも解いてみたいと思います。

今日は、こちらに能面を一面お持ちしました。「能面のような顔」と言えば、昔から無表情の代名詞のように言われてきましたが、実はよく味わってみると、とても豊かな表情をしています。少し想像力が必要ですが、このように少し前に傾けるだけで愁いを帯びた表情になり、後ろに傾ければ安らぎを帯びた表情になります。サッと横を向けば感情の高ぶりからこちらを睨むような感じをうけますし、目の前に軽く手を添えれば、悲しみに暮れて涙を流す表現になります。このように露骨に直接的な表現をせず、無駄をそぎ落としたわずかな動きで最大限の表現をする。これが能の大きな魅力の一つと言えるでしょう。そして、このことは日本の伝統文化のいろいろなところに共通点として見られることだと思います。この能面は「増女」という種類です。憂いを含み、気品のある、引き締まった顔立ちの女性です。今からこの体験用の能面を回覧しますので、どうぞ顔につけたり写真を撮るなど体験してみてください。

能・狂言は、元々奈良時代に中国から入ってきた「散楽」が、日本で「猿楽」と言われ、正しくは「猿楽の能」と言いました。室町時代になると、世阿弥という天才が現れ、能・狂言を芸能・演劇として大きく発展させます。また、世阿弥は多くの演劇論や芸術論を書いており、数多くの名言を残しております。今日はその中から、皆さんに小さなお土産として一つお持ち帰りいただきたい言葉があります。それは、「初心忘るべからず」という言葉ですが、これは現在使われている意味と世阿弥が最初に使った意味が違うのでご紹介します。元々は、「今の未熟な芸のレベルをよく覚えておきなさい」という意味です。ですから、この初心は若い時だけでなく、十代の初心もあれば三十代、五十代、七十代の初心もあります。ぜひこの言葉の本来の意味を今日のお土産にさせていただければ幸いです。やがて戦国時代になると、能・狂言は戦国武将にも受け入れられました。特に太閤秀吉は能狂い・能キチガイと言われたほど能・狂言が好きでした。現在放送されているNHK大河ドラマ「真田丸」の第27話で、秀吉が能を観覧する場面がありましたが、ご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。江戸時代になると、能・狂言は幕府の式楽（公式の芸能として管理）となり、家元制度が整備されて統制されます。一方、町人など民衆の間では、謡が習い事として流行します。その後、江戸幕府が消滅すると、能役者は廃業・転業を余儀なくされ、能・狂言は衰退の一路をたどります。明治維新の混乱が収まり、芸術保護の政策のもと、徐々に復興していきましたが、現代においては、各地に能楽堂もでき、さらに2001年にユネスコの世界無形文化遺産の認定を受けました。雅楽・歌舞伎・和食・茶道よりも先に第一号として認定されたのは、能・狂言の素晴らしさが認められたことだと思います。

さて、その能・狂言がどういう内容のものなのかについて、能・狂言のそれぞれ名作と言われる作品を通して、ご紹介しましょう。まず、能は面をつけて謡と舞とお囃子によって演じる「悲劇」で、人間の苦悩や悲しみを描きます。狂言は、面をつけず、台詞を中心とした滑稽な台詞劇「喜劇」で、人間の愚かさを表現します。昔から、この悲劇と喜劇をセットで上演します。大事なことは、能も狂言も英雄やヒーローは登場しません。勧善懲悪の話ではなく、ある時代の何か「事件」を題材にはしていません。歴史上の人物は出てきますが、それは人間の一つの典型として扱うに過ぎないのです。普遍的な人間の苦悩や悲しみ、愚かさを描いているので、いつの時代でも通用する芸能なのです。

能「葵上」は、源氏物語が題材で外国人にも人気が高い演目です。葵上は光源氏の正妻のことで、

題名は「葵上」ですが、葵上も光源氏も登場しません。誰が登場人物かと言えば、年下の葵上に正妻の座を奪われて、嫉妬の鬼となった六条御息所という年上の高貴な女性が主人公です。六条御息所は、気品と知性を持ち合わせた身分高い貴婦人ゆえに抑え込まれた嫉妬心が爆発。般若の面の生霊となって葵上を呪い殺そうとしますが、最後は比叡山・横川の僧侶に祈り伏せられて成仏します。私は、この能を最初は怖い話だと思ったのですが、何度も観るうちに、本当は彼を独占したかったが年上という引け目・身分の高いプライド・美しい自分を傷つけまいと本心を押し殺す自己抑圧から生霊とならざるをえなかった六条御息所に、不憫で、愛おしさすら感じるようになりました。御息所は、嫉妬心が深いゆえに悟りへ近づけたといえるのではないのでしょうか。谷沢永一という国文学者が、「人間はとことん煎じ詰めていくと最後にはどす黒い嫉妬の塊が残る。これが人間の本性だ。」と述べていますが、女性にも男性にも誰にでもある人間の本性を見事に描いている能の名作です。

次に狂言「棒縛」という演目です。酒好きな太郎冠者・次郎冠者の二人の召使いが、主人が留守のたびに酒蔵へ忍び込んで盗み酒をするので、今日も外出する主人が一計を案じ、一人を棒に、一人を後ろ手に縛って出かけます。それでも悪知恵のはたらく二人は、何とか酒を飲もうと工夫し、酒盛りが始まります。散々酔っぱらっていると主人が帰宅し、後ろから酒桶を覗くと主人の顔が酒に映りますが、これは酒を飲むなどと言った主人の執心だと笑う二人は、主人に大目玉を食らいます。酒好きな人間の典型や主従の対立を明るく描いている滑稽な狂言です。この狂言は、身振り手振りの多い曲で言葉の壁を超えているので、外国人向けの上演も多く、クリントン米元大統領来日の際に東京赤坂の迎賓館の政府レセプションでおもてなしとして披露されました。

世界的な免疫学者の多田富雄さんは、生前中に能にも親しまれた方で、自ら鼓を打ち、新作能の台本も作成されました。その多田さんに「寛容のメッセージ」という著書があり、その中の『寛容の境地』という文章に、次のように書かれています。“「能」の世界では、怨みや憎しみの報復は描かれていない。”能は恋の嫉妬や戦の怨念を、狂言は主人に対する不満などを描きながらも、報復によって相手を打ち負かすのではなく、人間の悲しみや愚かさを大切にして、寄り添っている芸能。それが能であり狂言であると言っているわけです。

翻って現代はどうでしょう？ テロなど様々な事件が起きていますが、悪を徹底的に排除して懲らしめ、役に立たないといつてはとことん切り捨て、効率化とコストパフォーマンスを意識して、

何でもスピード化されていく現代社会。数年後には、リニア新幹線で名古屋～東京間が40分でいけるようになるそうですが、はたして私たちは、そうなった時に今より時間にゆとりができるのでしょうか？ このような時代だからこそ、スピードと対極にある能や狂言を観る意義があるのではないかと思います。

先日、今話題の映画「シン・ゴジラ」を観ました。ゴジラの動きを狂言（野村萬斎）の型で描いていましたが、現実に対する虚構（理想）の神々しいイメージ作りとして、700年前の悠々とした狂言の型で演じられたことに、私はとても嬉しく何か希望を感じました。

どうか皆さんも、一年に一回でも結構です。能楽堂という静かな空間へ足をお運びいただき、ゆっくりと能・狂言の世界に浸ってみてください。きっと何か大切なものと生きる力を感じていただけるのではないのでしょうか。

本日は、能・狂言を現代社会に照らし合わせて考えてみました。まとまりのない話で恐縮でしたが、諸々ご批判いただければと思います。ご清聴ありがとうございました。



卓話

豊田市コンサートホール・能楽堂 杉伸 隆伸氏